

15 故大谷木備一郎君の葬儀

〔『法学新報』第一号 明治二十五年二月二十五日〕

○故大谷木備一郎君の葬儀

故法学士大谷木備一郎君は東京法学院創立者の一人にして其功
勞尠少ならざるを以て同院講師協議の上、院葬式を営むこと、
し過日来同院の事務員諸氏をして一切の準備に尽力せしめ終に
去る廿一日を以て其葬儀を下谷北稻荷町龍谷寺に於て執行せら
れたり今其模様を略述せんに同日午前十時君の遺骨を仲猿楽町
に迎へ予て設置せられたる法学院の広庭に於ける壇上に移し親
戚故旧參列の上正副導師の読経あり終て午後一時出棺す喪主は
君の実弟富次郎及耐三の両氏なり

僧侶伶人凡そ百名に垂んとし、講師其他君の知友、神田茶話會、
能弁學會、法学院々友會、生徒、事務員等より寄贈せる供花は
殆んど千対に達し又君の親族知友法学院講師院友及生徒等の会
葬するもの無慮一万人の多きに及ひたるを以て法学院より龍谷
寺に至るの間実に数十町を隔つるにも拘はらず前行既に上野広
小路に達して後班未だ院門を出るを得ず傍觀の老若途上に充滿
し数十名の巡查は所々に徘徊して之を制する等頗る雜沓を極め
たり既に下谷稻荷町に至れば道幅の狹隘なるが為め車馬路上に
填咽して非常の混雜を來し会葬者は龍谷寺及白專寺等に充滿せ
り偕柩の式場に到着するや衆僧の読経及導師の因導あり次て東
京法学院長菊池武夫氏院友総代花井卓藏氏及生徒總代等祭文を
朗讀し終て遺骨を大谷木氏の先塋に葬りたり当日の葬儀は諸事
鄭重善美盡せるものにして其盛なる故三條相国の国葬式に亞
くと云ふも敢て過言にあらざるべし棺を蓋ふて人定まる氏か生
前の德望亦た推知するに余りありと謂ふべし今法学院長其他院
友総代諸氏の朗讀したる祭文を得たれば之を左に掲ぐ

維明治二十五年春二月二十有一日法学院講師某等恭シク清
酌庶羞ノ奠ヲ薦メ亡友大谷木法学士ノ靈ヲ祭り併セテ痛哭
ノ真情ヲ告ク惟フニ明治十八年英吉利法律学校今ノ法学院
創設ノ拳アルヤ君尋テ講師トナリ勉勵懈ラス克ク子弟ヲ薰
陶ス其功績歴々見ルヘシ実ニ同院今日ノ隆盛ヲ致スモノ君
与テ大ニ力アリト謂フ可シ其功豈ニ没ス可ケンヤ君性賦温
良誠実人ニ接シテ從容迫ラス加フルニ學問ノ明ヲ以テス爰
ヲ以テ世人君ノ德ヲ賞揚シテ借カス其信ヲ社会ニ博シ衆望
ノ歸スル所トナルモノ亦偶然ニアラサルヲ知ル誰カ景仰セ
サルモノアラシヤ某等不敏亦妄リニ講師ノ班ヲ汚ス自今君
ト共ニ力ヲ教育ニ尽シ子弟ヲ養成シ国家ノ万一二裨補セン
ト期ス然ルニ君ニ暨ノ惱マス所トナリ是月七日濫費賈賣ス
嗚呼天此有為ノ士ニ借ス二年ヲ以テセス一朝騎龍ノ客タラ
シム実ニ独リ某等ノ不幸ノミナラサルナリ某等慟哭ノ余、
情溢レ辭蹙マリ言ハント欲スル所ヲ知ラス茲ニ法学院ヨリ
出柩シ葬儀ノ式ヲ舉行シ以テ某等平生ノ誼ヲ表シ聊カ其靈
ヲ慰メントス希クハ大谷木君在天ノ靈其レ饗ケヨ

明治二十五年二月二十一日

東京法学院講師總代 法学博士 菊池武夫稽首百拜
仁者果寿耶吁嗟碧翁ノ無情一ニ何ソ此ニ至レルヤ法学士備
一郎大谷木君ニ暨ノ侵ス所トナリ溘然去テ幽界不歸ノ客ト
ナル我東京法学院其儀ヲ齋ヘ其礼ヲ具ヘ場ヲ此庭ニ設ケ而
シテ潔齋蔬菲ノ典既ニ竟リ將ニ之ヲ下谷龍谷寺ノ墓ニ葬ラ
ントス、東京法学院々友總代花井卓藏謹テ茲ニ君ノ靈ニ告

ク馨蘭ノ風ニ撲タレ香蕙ノ雨ニ摧カル、世皆之ヲ惜ム況ンヤ人ニ於テオヤ否況ンヤ俊邁ノ姿ヲ有シ卓犖ノ志ヲ懷クノ名士ニ於テオヤ懷フニ君ノ始メテ大学ヲ去ルヤ法界ノ運猶草創ニ屬シ狀師其人ニ乏シク訟路未タ全ク其旧関ヲ撒スル能ハス君此ニ慨スルアリ奮然起テ職ニ狀師ニ就ク爾來南船北馬孜々トシテ暫クモ休マス其解冤伸枉ノ効果シテ幾子ソヤ遂ニ推サレテ東京代言人組合會長ノ榮ヲ荷ヒ同業僉ナ其徳ヲ欽ス民間法学發達ノ遅々タルヲ憂フルヤ力ヲ專修学校ノ創設ニ致シ尋テ我法学院設立ノ挙アルニ及ヒ幹旋願ル努ム身劇職ニ在テ常ニ講師ノ任ニ膺リ陶冶誘誨至ラサル所ナシ同僚之ニ服シ生徒之ヲ慕フ帝國議會ノ開クルヤ選ハレテ衆議院ニ列シ鷄群ノ一鶴嶄然トシテ時流ノ外ニ出テ讜言諤議屹爾トシテ俗論ヲ喝破ス時人多ク其操持ノ根抵アルニ服ス第二期ノ議會俗論鼎沸續紛歸スル所ヲ知ラス時人ノ君ヲ俟ツ所アル久シ而シテ議會竟ニ解散セラレ君終ニ起タス君ノ齋ス所知ルヘキ耳嗚呼人誰レカ死無カララン然レ厄濟世ノ大業未タ其半ヲ成サス滿腔ノ大志空シク北邙一杯ノ土壤ニ埋没ス遺恨果シテ如何ソヤ世間君ヲ知ラサルモノアラン而シテ皆均シク君ノ死ヲ悼ム卓藏等多年君ノ陶冶誘誨ヲ辱フス君ノ死ニ於テ豈尚一層ノ痛悼ナキヲ得ンヤ吁嗟君ノ偉才大志卓藏等夙ニ之ヲ欽シ君ノ寛厚真摯卓藏等大ニ之ヲ慕フ

恭シク靈前ニ立テ俛首疇昔ヲ追憶スレハ君ノ音容恍トシテ耳目ノ間ニ髣髴タリ君ノ往事ヲ言ハント欲スレハ歎歎言フ能ハス君ノ平生ヲ筆セント欲スレハ嗚咽筆スル能ハス只覺

フ熱淚ノ臉辺ニ滂沱タルヲ吁嗟悲ヒ哉仁者果寿耶君世ニ在ル僅ニ三十又五年其德際涯スヘカラス而シテ今ヤ則チ亡シ幽冥万里徒ニ雲ノ白フシテ而シテ天ノ碧ナルヲ見ルアル耳吁嗟悲ヒ哉君ノ靈若シ納ル、アラハ尚クハ来リ饗ケヨ

明治二十又五年二月念一日

東京法学院々友総代 花井卓藏稽首百拜

明治廿五年壬辰二月二十一日東京法学院生徒某等謹テ我講師大谷木先生ノ尊靈ニ告ク恭シク惟ミルニ先生ノ大学ヲ卒業スルヤ訴訟ノ妄濫ナルヲ憂ヒ其弊風ヲ矯正セント欲シ率先シテ代言士トナリ其業ニ従事ス而シテ其矯風ノ續往々ニシテ見ル可キモノアリ其衆議院議員ニ挙ケラル、ヤ言論適切操行安定人ヲシテ矜式スル所アラシム実ニ代議士ノ名ニ負カスト謂フヘシ先生學優德隆夙ニ我法学院ノ講師トナリ法理ヲ指示シ幽ヲ闡シ微ヲ顯シ克ク子弟ヲ薰育ス茲ヲ以テ先生ノ高訓ヲ辱シ業ヲ卒ヘタル者各自其業ニ就キ其身ヲ愆ラサルモノ是皆先生ノ賜ニアラサルハナシ某等先生ノ教ヲ受クル者鮮ナシト雖モ先進者ニシテ既ニ先生ノ教ヲ奉スル者ノ美蹟ヲ追ヒ心窃ニ先生ヲ欽慕セサルモノナシ爾來先生ノ高訓ヲ辱シ卒業ノ後他日國家ヲ裨補シ先生ノ德ニ答フル所アランコトヲ期ス何ソ凶ラン先生是月七日疾ヲ以テ遠逝ス某慟哭措ク所ヲ知ラス嗚呼先生ノ遠逝ヤ実ニ某等ノ不幸之レヨリ大ナルハナシ人生固ヨリ命ナリト雖モ先生春秋ニ富ミ僅ニ而立ヲ過ク蒼天何ソ有為ノ士ヲ奪フノ無情ナルヤ江河竭クルアリ此恨竭クルナシ某等自今孜々懈ラス先生ノ

訓謨ヲ佩服シ旦夕忘レス先生在世ノ遺徳ニ背カサランコト
ヲ誓ヒ茲ニ香華ヲ奠シ以テ先生ノ尊靈ヲ祭ル伏シテ希クハ
先生在天ノ靈某等ノ微衷ヲ容レ某等ノ将来ヲ鑑ラシ玉ヘ嗚
呼悲夫

明治二十五年二月二十一日

東京法学院生徒総代 池上吉藏稽首百拜